

「令和3年度 新任（保育士・保育教諭・職員）研修会」 報告書

- 【期 日】 令和3年5月13日(木)
【会 場】 ホテルニューオータニ佐賀
【主 催】 佐賀県保育会
【参加人数】 111名（集合34名・オンライン77名）
【内 容】

研修1 12:30～16:30

「保育～こころひらき、自らも育つ幸せ～」

講師 田口 香津子 氏（佐賀女子短期大学 学長）



研修1『保育～こころひらき、自らも育つ幸せ～』

講師 田口 香津子 氏（佐賀女子短期大学 学長）



講座①

〔専門性の土台となる人間性、**自分自身を見つめる時間。**〕

知識やスキル優先ではない。社会人、人間としての土台づくりの時期

- 「相手を信頼し、こころを開く」とはどういうことか。
笑顔・挨拶・謝罪・感謝・素直さ・涙・共感⇒自分でモニタリングしてみる。
- 「出来ない自分」で自信喪失をしない。 自己受容
「能力だけで人の価値を測らない保育者になるためには、自分自身の良さと弱さの両方を受け容れ、他者の力を借りて成長を図ろうとする姿勢に自信を持つ。」
 - ・ 自己理解が子ども理解につながる。
 - ・ イノセントの時代が大切⇒何をしても無条件で受け入れられる(乳幼児期に必要)

参考絵本「いいこってどんなこ？」 作 ジーン・マゼット

子育てに関わる「親」になる「保育者」になるということ

- 育ちゆく「こども」「いのち」と日々関わる喜び、再発見
 - ・ 今、子どもと関わることでこの瞬間を生きている
 - ・ 初めての瞬間に立ち合える
- 自らの子ども時代の未解決な課題に直面してしまう。私は親のようにはならないと思っていたのにでも、3人に2人は、、、
 - ・ 自分がされて嫌だったことはしていない子育て→7割
親以外との他者との出会い(愛着の再結成)、認められることによって自分再構築できる

[足算の学びと引算の学び]

- ・ **引き算の学習(誤学習の消去)は重要。人権学習の一つ。**
自分の言動を振り返り、身に付いてしまったものを消す。

講座②

[子ども理解と対応に必要なエッセンスを学ぶ時間。] 人権、ジェンダーも含む
愛着理論が理解できていないと、こども理解が浅い。再度確認してしっかりと理解する。

H28年児童福祉法の改正、ボウルビイの愛着理論がベースこどもが特定の一人ないし、
複数の大人に対して持つ情愛的絆

- ・ 不安な場面で活性化されるもの
 - ・ 必ずしも母親でなくてもよい
 - ・ 心の安全基地となる存在
- } 親が離れたり、危険・困った時
安定的な存在、心の中にいる存在

いじめ、虐待、体罰に共通する力関係の構図を読む。

- 第三者は、中立でも公正でもない。 ⇒ 多数派側に寄りがちなので注意する。
- 力のある側（多数派、社会的・経済的影響力）に寛容であり、力のない側（少数派、社会的弱者の立場）には距離を置きやすい。

こども理解の「障碍」とは

- 「暴れる子ども」が単独で存在してはいない。
 - 「子どもが暴れている状態」が存在している。
 - 「子どもが暴れている状態」には、そうならざるを得ない要因がある。
- 私たちが、それを見つけることが出来ない時に、子どもと私たちの間に「障碍」がある。
子どもたちの中に「障碍」があるのではない。どの子どもも唯一無二の存在である。
ひとりひとり違う。固定的な性別役割分担意識で、男女判断しない。

参考紙芝居「なにがすき？」 アバンセ HP よりダウンロード

ジェンダーギャップ指数2021

- ・ 世界経済フォーラムが国別に男女格差を数値化 日本は156か国中 120位
経済 117位 政治 147位 教育 94位 医療 65位

周りの対応で、心の状態は変わります。

- ・ 見えないところの中のプラスの感情に呼びかけること、見つけてあげることで自尊心を向上させる。

誤解されやすい子どもたち

- ・ 護られ感の薄い子の圧倒的不利な状況下で自分を護るための対処行動をとる
行動だけで判断するのではなく子どもの自尊心を高め、安心・安全を与える声の掛け方・接し方が大切。

3年後、5年後、新採保育者が憧れる保育者に自分になる。

楽な方を選ぼうとすると、保育の楽しさから遠のきます。

他律⇒自律⇒貢献

《報告》

様々な事例をもとに子どものこころ、理解について保育のあり方を改めて見つめなおす機会になりました。愛着形成の大切さ、子どもの行動にある背景にもさらに目・耳を傾け寄り添い、安心・安全を与えられる存在になれるように日々の保育に邁進してまいりたいと思います。
(文責:みどりヶ丘保育園 竹野奈美)